研 究 者：下神　　梢（所属：広島大学歯学部国際交流活動部　HUDBI）

研究題目：カンボジアでの国際歯科支援活動

目　的：

カンボジアのシェムリアップ郊外にある小学校とチュレイ村における小学校で行われた歯科支援活動に参加した。カンボジアはボル・ポト派の知識人大量虐殺において歯科医師も巻き込まれ30人しか生き残らなかった。保健省口腔保健局によると現在450人まで増えたが，絶対的に歯科医師が不足していることに加え，首都プノンペンに集中しており，農村部の人達が歯科治療を受けるのは難しい現状である。さらに，生活水準をはるかに超える高額な治療費という歯科事情もあり，多くの人が歯科疾患に苦しんでいる。また，歯磨きの習慣も十分ではなく，予防の重要性が広まっていない状況にある。

私達学生は，小学校の児童とチュレイ村における村民を対象に歯科医師，歯科衛生士とともに歯科医療支援活動を行った。この取り組みは，私達学生が医療ボランティアに参加することで発展途上国であるカンボジアの口腔衛生ならびに歯科疾患の現状を知ることにより今後何を自分達がすべきかを捉えることができる。また，社会貢献の能力を身につけ，カンボジアだけでなく他国での口腔衛生の活動へ展開していくことである。

保健医療派遣団は2009年から年2回ササースダム小学校で支援活動を行っているが，今回は2010年9月に行った3日間の内容と，チュレイ村（1日）での内容を報告する。

対象および方法：

派遣団は歯科医師8名，歯科研修医5名，歯科衛生士5名，歯学科学生3名，口腔健康科学科4名である。

歯科医療支援はカンボジア保健省への働きかけと教育者への理解の中で行われた。対象は小学校の児童487名とチュレイ村の住人123名である。

小学校での内容は，歯科検診，TBI，フッ化物塗布，歯石・着色除去，セメント充填，抜歯，唾液検査，口腔保健調査，口腔衛生教育（紙芝居による啓発）である。チュレイ村での内容は，口腔衛生指導（1人1本歯ブラシを渡す），紙芝居による啓発，口腔内診査，歯科治療（TBI，セメント充填，抜歯），フッ化物塗布である。

結果および考察：

＜結果＞

1. チュレイ村での対象

男女別		年齢別	
男性	64 名	0〜6 歳　（幼稚園）	20 名
女性	59 名	7〜12 歳　（小学生）	43 名
		13〜18 歳　（中高生）	23 名
		19 歳〜　（大人）	37 名
計　123 名		計	123 名

2. ササースダム小学校での対象

1 年生：男子　49 名　　女子　51 名　　計 100 名

2 年生：男子　11 名　　女子　12 名　　計 23 名

3 年生：男子　46 名　　女子　44 名　　計 90 名

4 年生：男子　40 名　　女子　46 名　　計 86 名

5 年生：男子　45 名　　女子　50 名　　計 95 名

6 年生：男子　42 名　　女子　51 名　　計 93 名　　総計　487 名

1）チュレイ村での結果および考察

チュレイ村では 1 人 1 本の歯ブラシを渡し，歯科衛生士が 1 人ずつに対して TBI を行い，それぞれの患者が適切なブラッシング方法をある程度習得できた。しかし，大人でも磨き方がほとんど分からず歯ブラシの持ち方もままならない人もいた。学生が製作した紙芝居（通訳の方に読んでもらった）は全身の健康のために歯で良く噛むことの重要性を説いた内容であった。子供たちは興味を持って聞いてくれたので，良く噛むためには健康な歯を守らないといけないという意識を持つことができたようであった。その後，口腔保健衛生学の学生が顎模型を用いての集団歯磨き指導を行った。ここでは顎模型を用いたので視覚的に訴えることができブラッシング方法の向上に役立つことができた。

処置においては，乳歯の抜歯のケースが多かった。学生はライトを照らすなどしかできなかったが，屋外で，しかも器具が限られている状況での治療を見ることができたのは，貴重な経験となった。

チュレイ村では歯科医院が近くになく，また，最近になってチョコレートなどの砂糖を多く含む食品が普及しつつあるが，人々の間で口腔に対する知識の低さなどにより口腔内は重度のう蝕が放置されていた。そのため，まずは村民に適切なブラッシング法を知ってもらいセルフケアができるようになることが最も必要なことである。また，同時に，砂糖など食品に対する知識の普及も行っていく必要がある。

2）ササースダム小学校での結果および考察

ササースダム小学校でもチュレイ村同様，1 人 1 本歯ブラシを渡し，紙芝居による啓発やクラ

ス全体に対する TBI を行った。TBI では，学生が顎模型を用いて行うことで生徒に視覚的にわかりやすく説明することができた。またここでの活動は 2009 年から行われており，3 回目なのでほとんどの生徒が適切なブラッシング方法で磨くことができていた。紙芝居による啓発も，チュレイ村同様，全身の健康のために歯を大切にして，噛むことの重要性を知ることができる機会になったと思う。唾液検査は歯科衛生士が中心となり行われた。学生はこれまで大学の授業での相互実習で 1 対 1 の個別の唾液検査は行ったことはあるが，集団への唾液検査は初めてであった。かつ言葉が通じないという点で多少戸惑ったが時間が経つにつれて慣れていった。またササースダム小学校での唾液検査も今回で 3 回目となるが，生徒たちも要領を覚えており，協力を得ることができた。今回の活動日は夏休み後の始業日で生徒が学校に来ていないなどの理由で対象となる生徒が減少していたが，1 年前と比較して生徒たちの唾液の性質の変化を知ることができた。またササースダム小学校の生徒たちの口腔内を実際染色したところ，かなりの染色が見られた。また，今回の成果として，1 年生が初めて登校する日と重なっており保護者同伴で登校していたので保護者に対する意識の啓発もすることができた。さらに今回う蝕予防教育用パンフレット（英語版・クメール語版）を持参し，先生方に対して解説，ブラッシュアップを図ったので学校側の協力もより強化された。

今後は，今回習得したブラッシング法が日常的に行われるように学校や家庭に見守ってもらう必要がある。そのためには，学校側に適切なブラッシング方法を習得してもらうだけでなく，家庭の中まで踏み込んだ指導が必要である。生徒だけでなく保護者にも指導を行ったり，プリントで説明したりする必要がある。またパンフレットでなく教室に掲示できるポスターを望む声もあったので，ポスターの作成をしていきたい。



チュレイ村での紙芝居



チュレイ村での学生によるブラッシング指導



チュレイ村での抜歯



小学校での口腔内診査



唾液検査風景



染色後の生徒

3）まとめ

今回，カンボジアの歯科保健活動で紙芝居による啓発や，TBI，歯科処置などを行うことで口腔衛生意識に対する意識の向上はなされたと思われる。今後はその意識の更なる向上，継続，拡大が課題である。

しかし更なる向上や継続が起こるためには，国はもちろん現地の歯科医院の活動や学校などの働きかけが必要である。そのため我々は現地に対する知識や技術の提供をしていくのが重要であると考える。今後，現地の人たちがその知識や技術を駆使していき，私達の活動が１つのきっかけとなり広がっていくことを期待している。

成果発表：

森山幸奈他：カンボジア農村部の小学校児童の口腔内所見について，近畿・中国・四国口腔衛生学会総会，2010.

松添香菜子他：カンボジア農村部の小学校児童の口腔意識調査について，近畿・中国・四国口腔衛生学会総会，2010.

川野沙織他：カンボジア農村部の小学校児童の唾液検査結果について，近畿・中国・四国口腔衛生学会総会，2010.

松本厚枝他：カンボジアの小学校における国際歯科支援活動の報告　―口腔保健学科生のかかわりについて―，日本歯科衛生学会 ,2010.

平成 22 年 10 月 27 日　平成 22 年度　第 1 回カンボジア歯科支援活動報告会

平成 23 年 2 月 27 日　平成 22 年度　第 2 回カンボジア歯科支援活動報告会